

3/6(日) まいじ / 倫理です。3月の足音を聴く、温かく感じる、今日の頃です。  
- 白昼の、今週の倫理、地球の営み、本々を生かされています

感謝!

今週の

倫理

3月のテーマ | 地球倫理

2022. 3. 5~3. 11

1271号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことは掲載いたしません。

生きていくとは、活動していることである。さかんに動くことである。動くとは、位置や状態を変えることである。死んでいくとは、この反対だ。

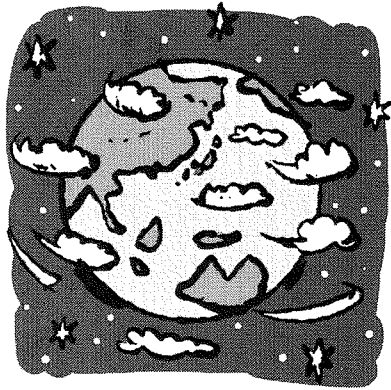
地球は生きていく。活動している。さかんに動いている。位置や状態をたえず変えている。絶対に死んではいけない。

私たち人類を育て養い、ある時は厳しく叱責もし、教導してゆくこの地球に対してどのように接してゆくべきであろうか。それは実に簡明にして、かつ意義ぶかい日々の実践である。

「ありがとう！ 母なる地球よ！」

この感謝を心に深く養い、形に表わして、それぞれの仕事に励む。これこそ、人類の幸福と健全な繁栄を築く基礎的実行に他ならない。これが宇宙に対する畏敬の念をなお深め、いよいよ高める第一歩となる。

私たちの生活は、この生きていく地球と、太陽にすべて依存している。今日の食べもの、飲み水などはすべて地球にあるものではないか。野菜、果物を始め、鳥獣、魚介類に至るまで、毎日地球の世話により育成されている。それから石油、石炭を始め、必要欠くべからざるエネルギーも地球から頂戴している。今私たちが使用している電気も地球にあるものだ。とくに空気である。



## 地球よありがとう

丸山竹秋

地球の膜ともいえるべき大気こそ、この瞬間のこの生命の源である。空気がなければ一刻も生きては居れないことは誰でも知っている。だが「ありがとう」とはなかなか言えないという。おかしいではないか。よほど私たちは愚かなのであろう。

昔は大地の母とか、母なる大地などと言った。その大地とは実は大海を含むものである。だから言葉としては、大地や大海をコッポリと抱き載せている地球、母なる地球、と言ったほうがよい。まさに私たちの生命の源、直接間接に日々の生を支えてくれている「生きていく地球」の存在こそ、ありがたい極みではないか。

「地球よ、ありがとう」を忘れて人類は自然を破壊し続けてきた。そして今や自分たちの生存をさえ危うくしている。現在こそ、この感謝を日常生活に表わし、地球環境を粗末にしないよう、大切にして豊かな人生を立て直してゆこうではないか。

地球人の、地球人による、地球人のための倫理。これを地球倫理と呼ぼう。

地球倫理とは、環境破壊や資源の減少その他の大問題とともに生起するであろう地球の危機を防ぐ大道なのである。この地球上の誰もがすべて実行しなければならぬ仁道大義であり、原理原則なのである。

生命の尊さ、大自然の恵み、世話になっている人々などへの感謝を忘れることも多い。今こそ普遍的、世界的地球倫理推進の時期である。

『選集』、『世紀の歩調』より